

平成 16 年度最終報告書

(様式 10)

被助成者 特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会



コード
番号

1. 活動の目的

地域間・社会集団間における貧富の格差がますます広がる中で、国際社会が抱える不安材料は増加し、深刻化している。これら様々な課題の解決にあたって、市民セクターが、社会からの期待に充分応えているとは言い難い。国際協力やボランティアに興味を持つ市民は確実に増えているが、それらの人々が実際に課題解決に向けて一歩を踏み出せるような仕組み作りや支援が必要とされている。

関西 NGO 大学は単なる「国際交流」「異文化理解」を謳う講座とは一線を画し、「多様な背景をもつ市民ひとりひとりが、それぞれの立場から国際的な課題へ“関わっていく”」きっかけづくりをゴールとする。その達成により、市民による国際協力活動・課題解決に向けた活動のエンパワーをめざす。

2. 活動の内容と方法

全 6 回の連続講座を下記の通り開催した。(うち、本助成対象分は第 3 回から第 6 回講座である。)

<第 1 回>

日程：2004 年 9 月 18 日 (土) ～19 日 (日)

テーマ：NGO って何？NGO って必要？

ねらい：参加者の NGO に対する？(ハテナ)を解きほぐし、NGO とはどのようなものなのかについて理解を深める。貿易ゲームを通して、世の中の構造が社会に及ぼす影響を知る。その中で自分の今いる位置を確認し、自分が知らず知らずのうちに関わってしまっていることを考える。

発題者：平田哲 ((特活)アジアボランティアセンター)、藤野達也 ((財)PHD 協会)

場所：関西セミナーハウス (京都市)

参加者数：38 名

スケジュール：

<第 1 日目>

19:00 オープニング

19:20 セッション 1 「NGO って何？」

アイスブレイク

グループワーク

20:00 NGO 概論「NGO って何？」

21:30 事務連絡・交流会

<第 2 日目>

9:00 セッション 2 「貿易ゲーム」

11:30 昼食

12:30 セッション 3 「NGO って必要？」

自分の今いる位置を知ろう

NGO の必要性

14:15 事務連絡、ふりかえり

15:00 終了、解散

<第2回>

日程：2004年10月16日（土）～17日（日）

テーマ：これでいいのか！？世界の経済・日本の経済

ねらい：グローバル経済の現状と仕組みを知り、その世界が自分にとって、どうなのかを問い掛け、自分と社会の関わり方を見つめなおす

発題者：佐久間智子（(特活)「環境・持続社会」研究センター（JACSES））

場所：長居ユースホステル（大阪市）

参加者数：38名

スケジュール：

<第1日目>

19:00 オープニング

19:20 セッション1 講演「グローバル経済の本質と問題」

21:30 事務連絡・交流会

<第2日目>

9:00 セッション2 ビデオ上映・ディスカッション「100円ショップからグローバル化を考えよう！」

11:30 昼食

12:30 セッション3 ワークショップ「Wants & Able—私が望む社会」

14:50 ふりかえり

15:00 終了、解散

<第3回>

日程：2004年11月20日（土）～21日（日）

テーマ：やり過ぎさないこと、考えつづけること

—政治と私のつながり—

ねらい：社会の仕組みの中で、まともじゃないことが決まっていくことをやり過ぎさずに疑問を持ち、なぜなのかを考え続けることが大切である。問題を解決していくためになかまを組み、社会に働きかけていくことを考える。発題者：岡田憲治（専修大学法学部助教授）

場所：神戸学生青年センター（神戸市）

参加者数：32名

スケジュール：

<第1日目>

19:00 オープニング

19:20 アイスブレイク「おかしいことをいっばいあげよう」

19:20 セッション1 岡田さんのお話「デモクラシーの最もシンプルな意味」

21:30 事務連絡・交流会

<第2日目>

- 9:00 セッション2「大人の公民～政治・私・NGO～」
10:40 NGO 概論「NGO の役割」
12:30 セッション3「やり過ぎさないこと、考え続けること」
『茶色の朝』輪読
グループディスカッション
14:30 校長・副校長ふりかえり
15:00 終了、解散

<第4回>

日程：2004年12月18日（土）～19日（日）

テーマ：流す人、流される人 ―情報に流されない読み解き方―

ねらい：第2回・第3回で学んだ背景をふまえて、情報のとらえ方を見直す。まず、メディアリテラシーの
為のワークショップ等を通して、情報の出处により主張の違いがあること、自分が流されていることを理解す
る。次に、野中さんから「マスメディアに流れていない事実」のお話を聞き、既存のマスメディア以外から
の情報の取り方を知る。最後に、自分自身が今後情報とどうつきあうかを考える。

発題者：野中章弘（アジアプレスインターナショナル）、浜本裕子（(財)大阪YMCA）

場所：小林聖心女子学院 ロザリオ・ヒル（宝塚市）

参加者数：35名

スケジュール：

<第1日目>

- 19:00 オープニング
19:15 セッション1「流されてしまいました」
アンケートワーク種明かし
野中さん講演①
バズ・セッション
質疑応答
21:30 事務連絡・交流会

<第2日目>

- 9:00 セッション2「もう流されません」
野中さん講演②
野中さん・藤野さん対談
グループディスカッション
11:30 昼食
12:30 セッション3「いっしょに流しません？」
グループワーク導入
グループ分け
グループ活動
15:05 ふりかえり、事務連絡

15:30 終了、解散

<第5回>

日程：2005年1月15日（土）～16日（日）

テーマ：「こだわり」が社会を変える

ねらい：意思とこだわりを持つことで行動が変わる。それが社会を変える力になることに気づく。こだわりをもって生きている人や組織、企業から学び、自分の行動につなげていく。

発題者：ナマケモノ倶楽部、「ビッグ・イシュー日本版」、「パタゴニア」大阪ストア、應典院寺町倶楽部のスタッフの方々

場所：JICA 大阪国際センター（茨木市）

参加者数：37名

スケジュール：

<第1日目>

19:00 オープニング

19:15 セッション1 講演「住の“こだわり”が社会を変える」

21:30 事務連絡・交流会

<第2日目>

9:00 セッション2 パネルディスカッション「あなたの『こだわり』が社会を変える」

11:30 昼食

12:30 セッション3 グループワーク「こだわりを持って社会につながろう」

15:00 ふりかえり

15:30 終了、解散

<第6回>

日程：2005年2月12日（土）～13日（日）

テーマ：未来をつくる新たなつながり

ねらい：全6回のまとめをし、参加者一人ひとりが今後の社会との関わり方を考える。

発題者：参加者グループ、関西NGO協議会加盟団体

場所：小林聖心女子学院 ロザリオ・ヒル（宝塚市）

参加者数：29名

スケジュール：

<第1日目>

19:00 オープニング

19:10 セッション1 「グループワーク発表」

22:30 事務連絡・交流会

<第2日目>

9:00 セッション2 「ふりかえり」

グループワークのふりかえり

各回ふりかえり

全体ふりかえり

11:10 セッション3 「NGO 概論」

参加加盟団体の紹介

ブースまわり

12:30 パーティ

14:15 セレモニー

15:00 終了、解散

3. 活動の実施経過

(1) 実施スケジュールの概要

①期間

2004年4月より運営委員会を組織し、全体テーマ・構成を協議した。全体構成を決定した後は、全6回の各講座の担当者を4名ずつ決定し、各回の内容を協議した。全6回を通して講座のねらいが達成されるよう、全体構成を重視している為、各回の打ち合わせ以外の全体運営委員会も月1回のペースで開催した。2004年9月～2005年2月の間に、月1回・1泊2日の講座を6回開催した。各講座開催後には全体運営委員会を開催し、各講座の反省と次回への改善点・申し送りなどを協議した。

②運営方法

関西NGO協議会を事務局として運営委員会を組織し、事業全体の企画・運営にあたった。運営委員会は、関西地域のNGOスタッフや関西NGO大学修了生である学生・会社員・教員・公務員などで構成した。運営面を関西NGO協議会事務局長（榛木恵子）が、企画面を藤野達也氏（(財)PHD協会）と浜本裕子氏（(財)大阪YMCA）が統括し、各運営委員のアドバイザー役を担った。運営委員の約半数が前年度からの継続であり、経験のある委員から新人委員へそのノウハウが引き継がれるよう配慮すると共に、新人委員を入れる事でプログラムの固定化を避けるよう配慮した。第1回～第6回までの各講座は、1回につき4名の運営委員が主担当としてプログラム企画・講師交渉・当日の進行等を担い、事務局が会場手配や会計などの後方支援を行った。

(2) 実施スケジュール

・年月日	・実施内容
2004年4月14日	第1回運営委員会：運営委員顔合わせ、全体テーマの協議
2004年4月19日	第2回運営委員会：全体テーマの協議
2004年5月14日	第3回運営委員会：全体構成の協議、担当回の決定
2004年6月5～6日	第4回運営委員会（合宿）：各回企画の協議
2004年7月16日	第5回運営委員会：各回企画の進捗状況を報告・協議
2004年8月31日	運営委員研修（ファシリテーター研修）
2004年9月3日	第6回運営委員会：企画・運営事項の確認
2004年9月18～19日	第1回講座、第7回運営委員会
10月16～17日	第2回講座、第8回運営委員会
11月20～21日	第3回講座、第9回運営委員会

12月18～19日	第4回講座、第10回運営委員会
2005年1月15～16日	第5回講座、第11回運営委員会
2月12～13日	第6回講座、第12回運営委員会
3月25日	評価会（第13回運営委員会）
4月～6月	報告書作成

上記以外に、各回講座の打合せを、担当している運営委員により月1～2回行った。

4. 活動の成果

※実施事業（講座）の具体的な内容については、添付資料①報告書 P29～69 をご参照下さい。

（1）短期的な成果

①参加者数

のべ参加者数：209名（各回平均34名）

全6回講座の内4回以上参加（修了証授与）：26名

全6回参加（皆勤賞）：11名

②主体的に市民活動を担う人材の創出

ゲームやロールプレイと、多様な発題者による講義を適切に組み合わせる事で、参加者の考えるきっかけづくりをする事ができた。第6回の団体紹介／相談コーナーで、積極的に各NGOの活動に関する情報収集する姿勢からは、受講生が今後NGO活動に参加していく可能性の大きさを見て取れた。

③今後市民セクターを中心的に担っていく層のキャパシティ・ビルディング

講座の企画・運営を担う運営委員は、関西NGO協議会に加盟しているNGOスタッフと過去に同講座を修了した会社員、団体職員、教員らで構成した。これら運営委員からは、企画・運営を通じて自らのエンパワーメント・スキルアップを達成したとの評価が得られた。特に、「参加型教育・開発教育の企画・運営を通じて、平素の活動・仕事からは得られないファシリテーション・スキルを身につけた」という声からは、今後市民活動を担う上で欠かせないコミュニケーション・スキルを身につける場となっている事が確認できた。

（2）長期的な展望展開

①ネットワークを通じた市民社会のエンパワーメント

受講生は、インターネット上での掲示板作成、各グループワークのウェブサイト作成などを通じて、独自の人的ネットワークを作り、広げるという動きを開始した。

（3）期待できる社会的な波及効果

①新たな市民活動の創造

第4回から第6回にかけて「グループワーク」のセッションを講座二日目の午後に設け、同じ興味・関心を持つ者同士がテーマを決めてグループを作り、活動した。最終回（第6回）では、そのテーマに関するプレゼンテーションをおこなった。いくつかのグループは講座修了後もフィールドワークを実施するなど、自主的に活

動を継続している。

(4) 参考資料：参加者アンケートまとめより

①全体を振り返って

1) よかった点

■プログラム構成

- ・意見の共有ができ、違った視点をもてる仕組みになっている
- ・全体構成のスムーズさ、全回、全プログラムにつながりがあった
- ・自分がどう思うのかと絶えず自分と向き合う機会、時間をもうけている

■テーマ・内容

- ・講師（ゲスト）の多彩さ、講義内容
- ・経済、政治のテーマがタイムリーに取り上げられている
- ・色々な情報を得る事ができた。

■参加型

- ・自主性重視
- ・門戸開放主義、あまりかしこまっていない
- ・自分の考えを話す機会があり、考えを整理するのに役立った
- ・社会問題を考える主体が私たちであると認識できた

■人とのつながり

- ・色々な年代の方と世代を超え、様々な職種の人と話ができ、つながりあえたこと
- ・共に考える人たちとの出会いがあり、つながりをもちたい人と出会えた
- ・宿泊する事で、出会った誰とも濃い関係が築けた
- ・みんなでやると大きな力になるし、楽しい

2) 改善してほしい点

■プログラム構成

- ・グループでの振り返りの時間がいつもせかさされている感じ、シェア時間が短い
- ・もっとワークショップに時間を使ってほしい
- ・抽象的だなと思いながら、未消化なままワークを終える事が時々ある
- ・受講の形態 毎回、ゲストスピーカーの話、振り返りの形式に変化をつける

■グループワーク

- ・グループワークの運営方法。行き詰まった時に、促してもらえるアドバイス等がもっとあればよかった（会って数ヶ月の人同士が話し合うのが難しかった）

②企画内容について

1) 印象に残った回は？（複数回答）

NGO って何？ NGO って必要？	5 (21)
これでいいのか！？世界の経済・日本の経済	14 (25)
やり過ぎさないこと、考えつづけること—政治と私のつながり—	10 (21)

流す人、流される人—情報に流されない読み解き方—	14 (21)
「こだわり」が社会を変える	16 (27)
未来をつくる新たなつながり	11 (29)

2) 印象に残った講師・ゲスト・参加者・関係者は？（複数回答）

佐久間智子さん	13
野中章弘さん	12
岡田憲治さん	8
玉井さん（パタゴニア）	6
大岩剛さん	5
藤野達也さん、浜本裕子さん	4
応典院、岡部達彦さん	2

コメント

- ・佐久間智子さん…つなげて、それでいて上手い会話ができる事に魅了されました
- ・岡田憲治さん…非常に根本のことを議題にして、新たな問題意識に気づいた、とても勇気をもらえた
- ・野中章弘さん…目指したい人。今はなかなかいない、本当のジャーナリスト
- ・パタゴニア（玉井さん）…楽しみながら、自分の思いを実行している所がとても素敵だった。肩の力抜いていいんだと思った。
- ・大岩剛さん…ゆったりとした気分になれた。必要なものに順位をつけたら、本当に必要なものは少なく、セカセカ生きなくてもいいのかもしれないなあと考えた。

3) 印象に残ったプログラム（複数回答）

貿易ゲーム	11
グループワーク・発表	8
佐久間さんの講演	2
野中さんの講演	2
校長と講師の対談	2
交流会	2

その他

- ・タッチブルー
- ・茶色の朝の輪読
- ・第4回のアンケートワーク
- ・パーティ（用意ご苦労様でした）
- ・つながりのありように配慮されたプログラムだったので、どれも印象深かった

4) グループワーク

■プロセス

- ・手法としてはとても良いものだと思います。

・良かったと思う。今まで学んだ事をどのように活かしていくか、グループで考えを発表したことは、自分の勉強になった。

・いい案だった！！ただ私は提案型の人間で、それをうまく形にできる方々がいたので、充実したものができたのだと思う。

■仲間づくり

・よかった。あやふやだったけれど、少しずつ皆の力で向けていけたことが楽しい

・あってよかった。続けられるものが具体的にできた

・何より発表を焦ってしまい、その準備におわれた気がします。しかし、すごく小さな事でもやったという実感と圧縮されたミーティングはこれからの取組み姿勢に大きく役立つと思います。

・時間のない分、不完全ではあったが、それなりのグループの展開があり、楽しく、自分自身の行動へとつながられた。今後必要

・近い思いを持つ仲間同志がお互いに深め合えたし、視野も広がりました

・よかった。やはり1人では限界があり、何かをしていこうとおもうならば、グループかチームで活動する必要があるとおもうので、このような場で、グループで活動する経験は、大切だと思うから

・あまり参加できなかったが、協働して、ひとつのものを創りあげる充実感を実感できた。活動から生まれるものの大きさとプロセスの大切さを学べたと思う

・メンバーとさらに仲良くなれ、また、自主的に取組む機会を得ることができ、とても良かったと思う

・じっくり取組めたし、何よりもグループのみなさんと会って話せた事が、宝物。自分が今までかかわってきたことが、さらに深まり、広がった。他グループの発表も自分たちの発表とつなげながら、きくことができた。

・グループワークは必要。自分自身で考えるきっかけを与えてくれた。

・グループメンバーとのつながりが深まり、楽しかった。

・グループ分けの方法はすごくいいと思った。大変だったが、この活動がなければ、ただ「NGO 大学に行った」だけということになっていたかもしれない。

■改善点

・目標設定までのプロセスにもう少し学びが欲しかった。わりと簡単に決ってしまった印象

・4回目から5回目までの間をもっと意識的にとりくんでおきたかった。

・自分自身は十分に活かしきれませんでした

・もう少しだけ外の世界とつながれるものになるといい

・1~3回目の段階で少し「4回目以降にグループワークがあり、6回目に発表があるということ」を強調してもよいのでは？1~3回目の期間で準備ができると思うので、

・グループに分かれてやるのはよかったが、いきなりすぎて、始めの2ヶ月はほとんど何もないのは残念。

■その他

・途中参加のせいか、グループに距離があり、気をつかいすぎた。

5. 今後の課題

①社会背景に伴う、講座目的・対象の再検討

NGO や国際協力に興味を持つ層は確実に増加し、そういった層を対象とした講座・セミナー等も増加している。その中で「関西 NGO 大学」はどういった層にどういった内容を提供していくのか、社会背景に合わせた再検討が必要である。

②効果的／効率的な運営体制の確立

講座全体のコンセプト／構成の議論に時間を要した為、従来よりも1回多く運営委員会を開催した。しかしその結果、6回連続という講座構成を活かした企画内容とする事ができたが、企画・運営準備にかかる時間の多さが運営委員（特にNGOスタッフ）の負担になっている事は否めない。効果と効率を兼ね備えた運営体制の確立に向けた工夫が必要である。